

びじゅつ

ゆったり生きるリズム



1998年 白みかけ石 100
×170×130mm (アントワン
・サイトウ氏撮影)



1998年 赤みかけ石 2
×140×137mm (アントワ
・サイトウ氏撮影)

時を刳(く)り貫(ぬ)く

稔 る

びじゅつ

「生きるリズム」が表れている、と感じる。これが、斎藤智氏は、後者のタイプだ。例えば「穂の」と題した作品を見る。素材は石だが、いかにも彫刻した、作ったという感じがない。柔らかで、自然だ。いわば、風が食べかけた石のアイスクリーミン。ういつ形は、風の音、石の声、自然のリズムに、ゆっただけで傾けている人でないと生まれ出せないだろ。

「山舎で暮す僕には、自然と一致した生活のリズムだけが、制作のトリガー(引き金)なんです。主義や傾向が目まぐるしく変わるので、つづいていなければ……」

上伊那郡飯島町出身。冬季五輪のボブスレー・リュージュユース会場になった長野市浅川のスパイラルに設置されているモニュメント「明時(あかと

き）の作者でもある。今はカナダに住み、農場でアトリエを持つ。畑を耕し、鶏を飼いながら制作だ。

「農場と市街を往復するとき、いつも同じ道、同じ場所を通る。でも、行きと帰りでは日差しが変わる。木々の葉の輝きも異なる。そんな微妙な違いに気づくと、感激します。僕の生きるリズムが自然と同じだから、この美が目に留まつたんだ」と

日本の大学、カナダの大学院で経済学を専攻した。だが、留学直前に一ヶ月ほど滞在した米国で「発展、競争のすさまじさを見た。僕がのこのこ外国留学したところで、何をするというのか。疑問に思いました」。留学中は詩人や音楽家の交際を深め、芸術の道へと転進した。

「経済学者のマルクスには、哲学の著作もあるでしょう。

刻家

This horizontal strip is a portion of a larger traditional Chinese landscape painting. It depicts a scene with a prominent, multi-story building complex on the left, possibly a residence or a temple. In the foreground, a figure dressed in traditional robes is walking towards the right. The background features distant mountains and a clear sky, rendered in a style characteristic of Ming dynasty landscape art.

卷之三

藤

智氏

氏

This image shows a horizontal strip of aged, light-colored material, possibly leather or cloth, with visible texture and some darker, worn areas. It looks like a piece of old bookbinding material.

【さいとう・さとし氏】上伊那郡飯島町出身。1935(昭和10)年生まれ。61年に慶應大卒業後、カナダ・ツッギル大学院へ

彫刻家
斎藤
智氏



もどもほは僕も、経済学を通じて哲学を、宗教や芸術も含む幅広い人文学を志向していくんだと思う。ただ、自覚が遅かった。つまづく、やった

東京・恵比寿ガーデンプレイス内の現代彫刻センターで開いている個展（二十八日まで）のため、一時帰国した。「大学時代の仲間と日々に会つたら、『確かにお前は、み

「なんど違う歩調だったよ」と
「冷やかされました」
だが、この歩調だから抱き
得る危機感がある。
「現代人の生活は、どんな
ん加速している。がさがさ、

ちよ)まか、思いつきだけの行動に走っている。でも、人間は本来、「こんな猛烈なスピードでは生きていけない生き物だ」と思うんです。このままだと、個人も社会も遠からず「破たんしてしまう」